

別紙

前年度の温室効果ガスの排出の量及び排出削減計画に基づき実施した措置の状況

氏名	(法人にあっては名称) ナカシマプロペラ株式会社	住所	(法人にあっては主たる事業所の所在地) 〒709-0625 岡山市東区上道北方688-1
----	-----------------------------	----	--

本票作成	部署名：総務総務部
------	-----------

主たる業種	分類コード	23	業種名：非鉄金属製造業
-------	-------	----	-------------

事業の概要	船用推進器の開発・製造・販売
-------	----------------

県内の主な工場等	番号	工場等の名称	所在地
	①	玉島工場	倉敷市玉島乙島8259-12
②	岡山工場	岡山市東区上道北方688-1	

特定事業者の該当要件	<input checked="" type="checkbox"/> ①燃料等原油換算1,500kℓ以上 <input type="checkbox"/> ②バス・トラック100台、タクシー250台以上 <input type="checkbox"/> ③CO ₂ 換算3,000t以上 (●工場等の数 2 所 ●車両台数 (②該当の場合) 台)
------------	--

温室効果ガス排出量	基準年度(令和元年度)	(令和3)年度排出量	目標年度(令和3年度)
	15,718 t CO ₂	11,127 t CO ₂	15,405 t CO ₂

主な工場等の排出量	番号	工場等の名称	(令和3)年度排出量
	①	玉島工場	9,694 t CO ₂
②	岡山工場	1,433 t CO ₂	
		t CO ₂	
		t CO ₂	
		t CO ₂	
		t CO ₂	

削減目標の達成状況	計画期間： 令和2年度 ~ 令和3年度 (2箇年度)
	<input type="checkbox"/> 総排出量基準 (3)年度削減実績 目標削減率 目標達成 <input checked="" type="checkbox"/> 原単位基準 Δ 1.5 % 1.0 % <input type="checkbox"/> 達成 <input checked="" type="checkbox"/> 未達

(原単位基準の削減目標を選択している場合に記入)	温室効果ガスの排出量と密接な関係をもつ値の内容 生産重量	原単位当たり排出量		
		基準年度	(3)年度	目標年度
		1.063 t CO ₂ /(t)	1.079 t CO ₂ /(t)	1.042 t CO ₂ /(t)

(該当事業者のみ記入)

ベンチマーク指標の状況	対象事業の名称	ベンチマーク指標	関連数値(令和3年度)	達成率等

【削減状況の自己評価】

・2021年度の、急激な受注の縮小により、生産効率が大幅に低下してしまった。過去3年間は、年平均1%以上の改善が行えてきたが、急激な受注減により、主に電気炉の溶解効率大幅に低下し、全体の原単位低下を招いた。LED採用など省エネ対策を行っているが、それを上回る原単位低下となった。

【推進体制】

- ・省エネ法に基づくエネルギー管理統括者を中心としたエネルギー管理体制を整備している。

【目標削減率達成のために実施した措置及び今後の取組】

工場等の名称	実施した措置及び今後の取組の内容
玉島工場	(令和3年度実施分) <ul style="list-style-type: none"> ・B・C棟 鑄造職場の水銀灯24台をLED照明に更新。 ・E棟 鑄造職場の水銀灯4台をLED照明に更新。 ・砂処理場の水銀灯10台をLED照明に更新。 ・コンプレッサー37kW 1台を、省エネタイプに更新。
岡山工場	<ul style="list-style-type: none"> ・本館応接室とプレゼンテーションルームの蛍光灯をLEDに更新。
岡山工場	(今後実施予定分) <ul style="list-style-type: none"> ・街路灯をソーラー式に更新。

【森林保全等吸収源対策への取組】

県内での取組	無	
その他	無	

【再生可能エネルギーの導入】

県内での取組	無	
その他	無	

【その他特記事項】

- ・電気炉での溶解が終了したと同時に、鑄込作業を行い、電気炉での保温時間を短くし、使用電力量削減を行った。
- ・夏至と七夕の日に、工場の看板照明を消灯した。
- ・連休期間は、電気炉用冷却水用ポンプを停止させ、使用電力量削減を行った。
- ・昼休み時間に工場・事務所の照明を消灯することを徹底するよう、全社に通知した。
- ・エアコンの冷房温度を28度設定で運用するよう、全社に通知した。
- ・設計CFDコンピューター更新に伴う並列運転のため、電気使用量が倍になった。